

10月6日(火曜日)「出世論」

【新改訳 2017】

ルカ 9.46-48

「さて、弟子たちの間に、自分たちの中で、だれが一番偉いかという議論が持ち上がった。しかしイエスは、彼らの心の中の考えを知っておられて……言われた。『……あなたがたすべての中で一番小さい者が一番偉いのです。』」

古今東西を問わず、人間はどうも自分の偉さを気にします。肉の心理です。弟子たちもそうでした。

主イエスは弟子たちの心中を知って、一人の子どもをそばに立たせ、彼らを戒めて言われました。「だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です」(マタイ 18・1-5 参照)。ここでの「天の御国」は、死後の天国だけではなく、今、地上にある神の国(支配の領域)をも意味します。

弟子たちは、まだ世俗的な考えで、霊的な御国の世界のことを考えている状態でした。今日の私たちの間にも同様な状態があるのではないのでしょうか。主が認められる「偉い」とは、

謙遜な人であることを忘れないようにしましょう(ミカ 6・8)。

～祈り～

主よ。自分の出世や偉さを気にする、罪深い私たちをあわれんでください。どうか、生まれ変わった者として、神の子どもらしく謙遜で、なお力ある者であることができますように。

【学びのために】

アドラーという心理学者は、人間の最も根本的欲求は権力への志向であると言っています。それほど、人間は自分の力を誇示したがります。私たちは、信仰者としてどうでしょうか。自分の肉的な力を出そうとして、神の御力の妨げになっていることはないでしょうか。